

JCCA 研修会報告

JCCA2017 年度の研修会が 11 月 6 日、石垣島の健康福祉センターで開かれた。テーマは「スピリチュアリティ」。その研修会で精神科医の西村直之氏が「アディクションと回復」というテーマで講演を行った。本稿はその講演の要旨をまとめたものである。ただし、西村氏には校閲などお願いせずに、筆者が独断でまとめ、タイトルも無断で変更したものであることをお断りしておく。文責はすべて筆者にある。以下、講演要旨である。(文責、谷)

12 ステップの回復とスピリチュアリティ

1980 年から 90 年代にかけて 12 ステップグループをはじめとする相互援助グループ。アメリカではアディクションブームが起り当事者主導のトリートメントセンターが急増し、公的機関が盛んに活用し始めたのに対して、日本では当事者主導型回復支援施設が公的助成を受けることなく、自力で日本各地に広がった。

2000 年以降になると、アメリカではビジネス化の波に飲み込まれて、当事者主導のトリートメントセンターが閉鎖されていく。日本では当事者活動が認知されていくとともに、行政機関が回復支援施設を利用するという形になってきた。

日本では 100 年ぶりに旧監獄法が改正され、「刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律」が成立（2006 年 5 月 24 日施行）する。これによって薬物依存症離脱指導が強化されるようになる。これを機に法務省の中で「薬物依存症」、「回復」という言葉が公的な言葉として使われるようになり、厚生労働省や医療機関ではなく、法務省がアディクション回復の中核を担うようになってきた。

つまり、当事者活動（ダルクなど）は公的に社会資源化されていくことになった。それによって、当事者活動は財政的な安定を得、役割も多様化していくことになるというプラスの面もあるが、そこでは「治療」「再犯防止」「回復」という別々の概念が混同され、当事者活動の自由な発想による活動が萎縮、制約されることにもなるというマイナスの面も起こってくる。JCCA として時代の流れに身を任せるのか、それとも独自の道を選択するのかなど、様々な考え方があるだろう。

ただここに来て、12 ステップを用いる当事者主導型回復支援施設は、あらためて 12 ステップという独自のプログラムの中にある「回復」「回復プログラム」の位置づけや解釈を明確にしておかなければならないだろう。

グレン・ロバーツ (Dr. Glenn Roberts) は回復 (リカバリー) を二つに分類して説明している。臨床的回復 (Clinical Recovery) と人間的回復 (Personal Recovery) である。

比較すると次のようになる。

臨床的回復 (Clinical Recovery)	人間的回復 (Personal Recovery)
Less ill (病気をより少なくする)	More well (人間として豊かになる)
	A journey of discovery (発見の旅)
Reduced symptoms(病状を減らす)	Finding hope (希望を見つける)
disabilities (障害を減らす)	Strengths (長所を言つける)
use service (サービス利用を減らす)	an identity separate from illness (紡機と別のアイデンティティを見つける)
	opportunity to participate (参加する機会を見つける)
	a life worth living (生きがいのある生き方を見つける)
Getting over a condition (状態を克服する)	Getting into a satisfactory life (満ち足りた人生を得る)

法務省がイメージしている「回復」は臨床的回復 (Clinical Recovery) に近いものである。社会防衛思想、つまり疾患や犯罪、それに付随する社会的な負の影響を減らすということに軸に置いている。

一方、12ステップのプログラムは人間的回復 (Personal Recovery) そのものである。個人が健康のうちに生きる権利を擁護し、個人における害や危険を減じ、希望と自由を尊重することに軸を置いている。

今回の JCCA 研修会のテーマは「スピリチュアリティ」である。スピリチュアリティとは「目には見えないが、その人の人間としての在り方を支える心の中核となるもの・領域」ととらえることができる。12ステップでは、そこに目を向け、手当することで、精神、心理、身体をつながり（全体性と一体性）を取り戻し、成長させるプログラムといえる。具体的なプロセスは、今への注目、気づきという行動が、つながり（自分の中の、自分と他者の、自分と社会の）を結果として取り戻し、それを維持していく。この行動、結果、維持という循環運動によって人間性の回復が可能となる。12ステップはスピリチュアルなプログラムである。

今、この時の自分への注目によって、いままで見えなかった、受け入れることのできなかつた自分自身の内面の課題や問題の存在に「気づき」、自分自身の中でつながりを見出していく体験。この体験は心を開かなければ得にくい。「自我」が邪魔するためである。そのため、ハイヤーパワー（自分より偉大な力）を認め、ハイヤーパワーにつながることによって、このスピリチュアルなプログラムに入ることが可能となり、人間的回復を得ることができるのである。